

FUJIFILM コード No. 018-18111(5mL)
 コード No. 014-18113(10mL)
 コード No. 012-18114(50mL)

Wako

アプロチニン溶液,ウシ肺由来

起 源：Bovine Lung
形 状：0.9% 塩化ナトリウム及び0.9% ベンジルアルコールを含むろ過滅菌（0.22 μ m）溶液。
活 性：（ラベルに記載）
分 子 量：6,512

酵素活性測定法

（１）試薬

A. ほう酸緩衝液

四ほう酸ナトリウム十水和物0.572g、塩化カルシウム二水和物2.94gを水800mLに溶かし、1mol/L 塩酸を用いてpH 8.0に調整後、水を加え1Lにする。

B. トリプシン溶液 (6,000BAEE units/mL)

トリプシン 120,000BAEE unitsをA液に溶かし20mLにする。

C. 基質溶液

N α -ベンゾイル-L-アルギニンエチルエステル塩酸塩 0.35gをA液に溶かし500mLにする。

（２）トリプシン活性の測定

B液2mLを全量ピペットを用いて全量フラスコ20mLに入れ、A液を加え20mLにする。…試験溶液Ⅰ
水浴中で25℃に保ったC液50mLをマグネチックスターラーでかき混ぜながら0.1mol/L 水酸化ナトリウム溶液を用い、pH 8.0に調整する。あらかじめ25℃に保った試験溶液Ⅰ 1mLを全量ピペットを用いて加え、直ちにマグネチックスターラーでかき混ぜる。1分毎に10分間、反応液のpHが8.0になるように0.1mol/L 水酸化ナトリウム溶液を加える。時間と0.1mol/L 水酸化ナトリウム溶液の消費量の関係を求める。

（３）アプロチニン活性の測定

本品4mLを全量ピペットを用いて全量フラスコ25mLに入れ、A液を加え25mLにする。（a液）
B液4mLを全量ピペットを用いて全量フラスコ20mLに入れ、a液2mLを全量ピペットを用いて加え、A液を加え20mLにする。…試験溶液Ⅱ
以下、試験溶液Ⅰ 1mLの代わりに試験溶液Ⅱ（あらかじめ25℃に保った）1mLを用いてトリプシン活性の測定と同一操作を行う。
また、A液1mLを用いて同様に空試験を行う。

(活性の定義)

上記の条件下、トリブシンによる加水分解反応を1分間当り1 μ mol阻害する時、32.5KIUとする。

(計算)

時間(min)と0.1mol/L水酸化ナトリウム溶液の消費量の関係が直線となる反応時間(min)(t1,t2)を選び、それに対応する0.1mol/L水酸化ナトリウム溶液の消費量(μ L)を(v1,v2)とし、下記の式によって活性を算出する。

$$M = \frac{v2-v1}{t2-t1} \times \frac{1}{10} \times f$$

M：1分間に消費される水酸化ナトリウムの μ mol数
f：0.1mol/L水酸化ナトリウム溶液のファクター

$$\text{KIU/mL} = \{ 2(\text{Ma}-\text{Mo})-(\text{Mb}-\text{Mo}) \} \times 32.5 \times \frac{25 \times 20}{S \times 2 \times 1}$$

Ma：試験溶液Ⅰを用いた時の1分間に消費される水酸化ナトリウムの μ mol数

Mb：試験溶液Ⅱを用いた時の1分間に消費される水酸化ナトリウムの μ mol数

Mo：空試験時に1分間に消費される水酸化ナトリウムの μ mol数

32.5：KIUへの換算係数

S：量り取った本品の容量(mL)

〔貯法〕 2～10℃・遮光保存

〔包装〕

018-18111	5mL
014-18113	10mL
012-18114	50mL

製造発売元

富士フイルム 和光純薬株式会社

大阪市中央区道修町三丁目1番2号

Tel:06-6203-3741